

大橋川向島地区護岸整備説明資料



平成25年9月9日

国土交通省 出雲河川事務所

1. 大橋川改修に伴う水辺利活用ワークショップ

(1) 開催概要

場所	松江くにびきメッセ	協議 内容	1. 向島地区の護岸整備方針の説明 2. 整備プラン2案（A案, B案）の説明 3. 自由討議 4. A案, B案への投票 5. アンケート調査
日時	平成 25 年 7 月 6 日(土) 9:00~11:00		
出席者	一般参加者 37 名		
	ファシリテーター 飯野委員 行政スタッフ 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 島根県土木部斐伊川神戸川対策課 松江市政策部大橋川治水事業推進課		

(2) 開催状況



A案・B案投票



整備プラン説明

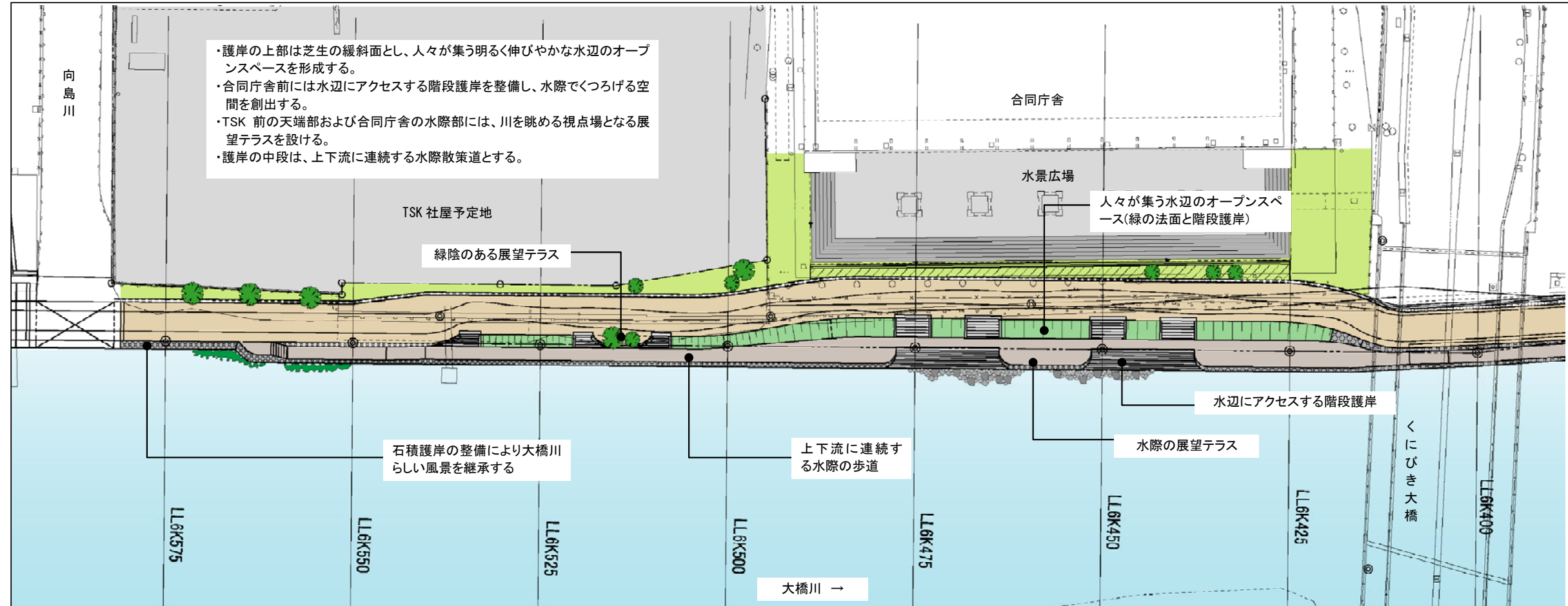


討議

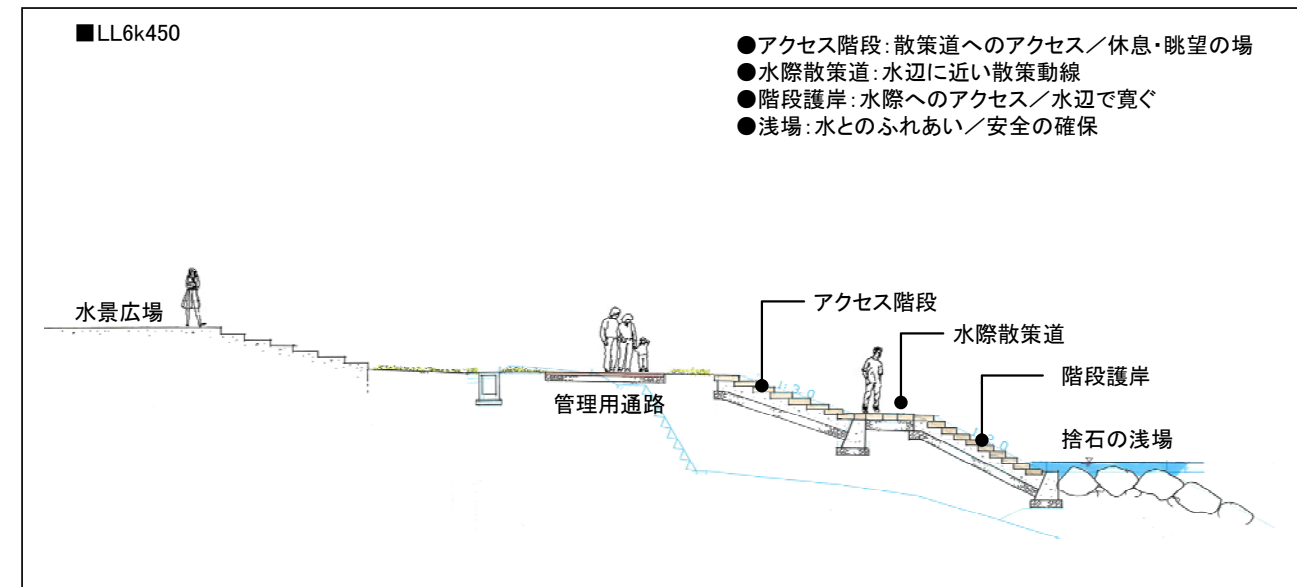
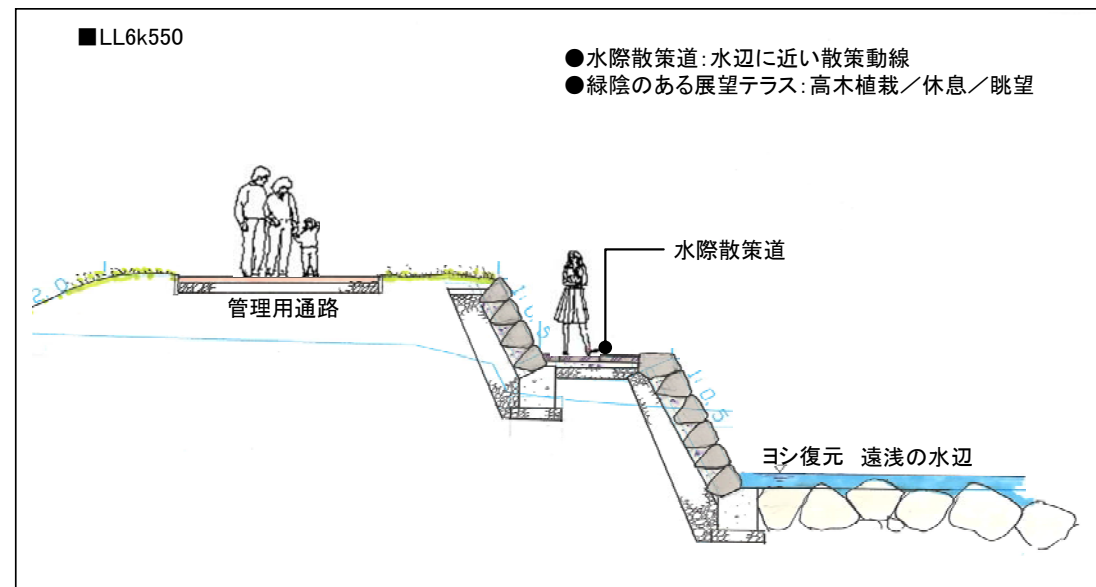
(3) 提示資料

【A案】

■平面図



■代表横断図

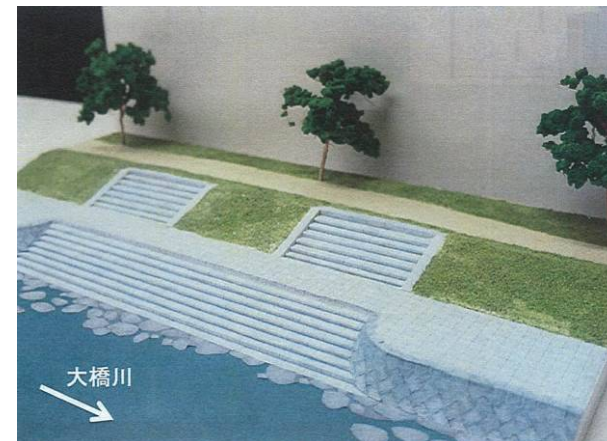


【A案】

■整備イメージ図

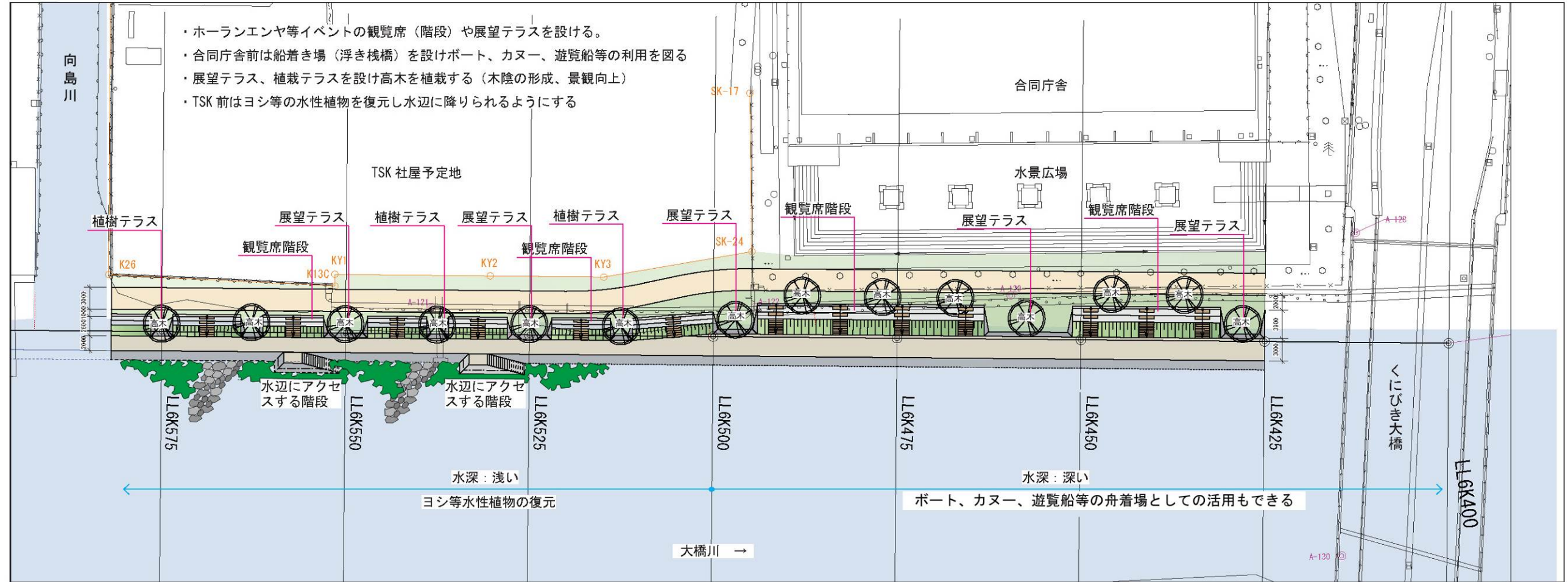


■模型

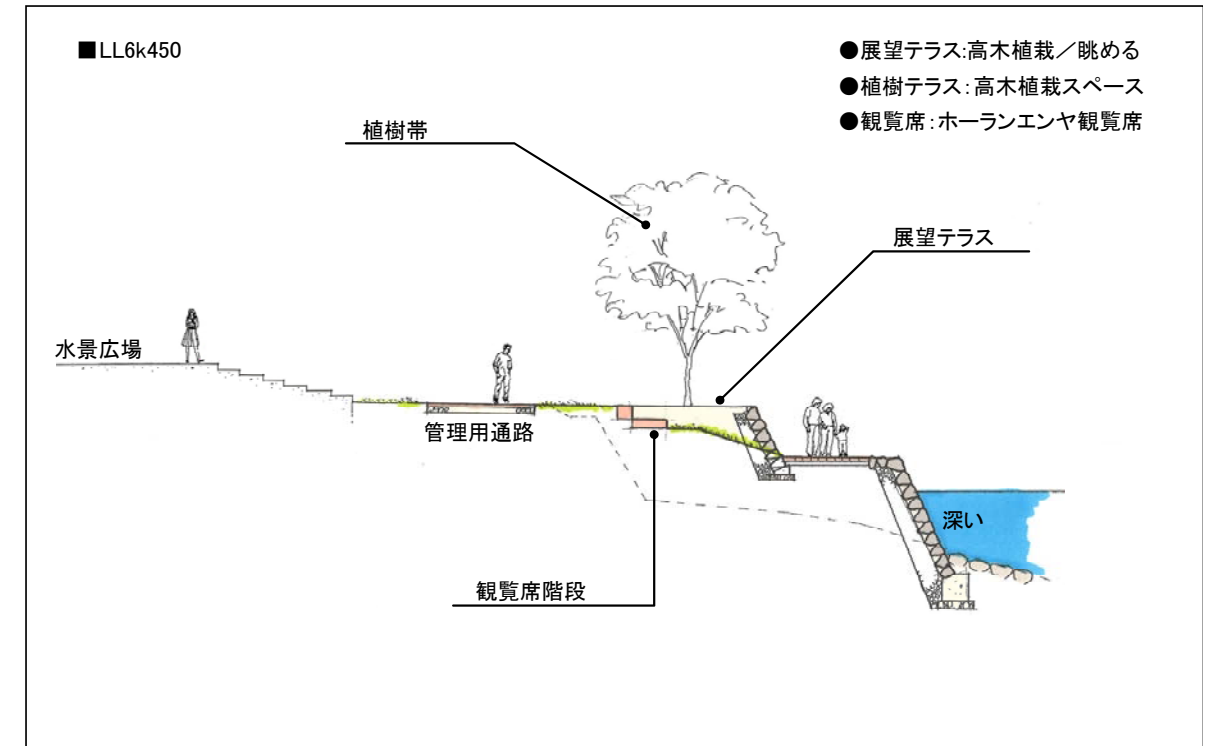
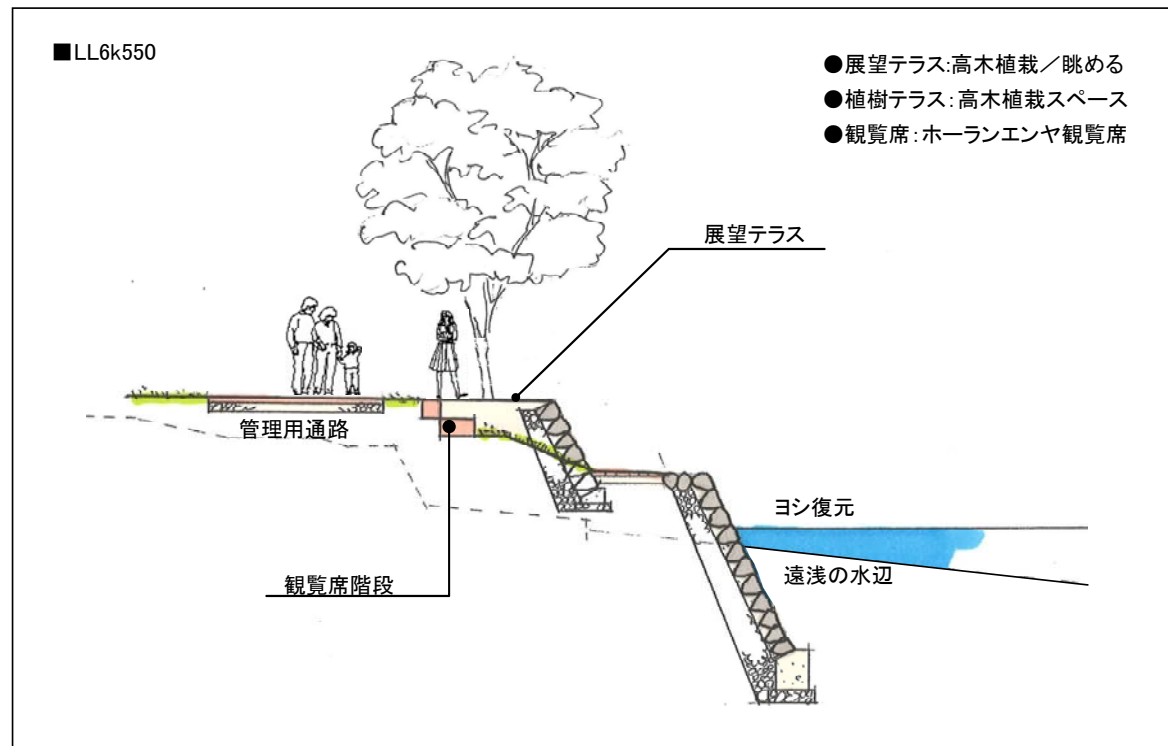


【B案】

■平面図



■代表横断面図

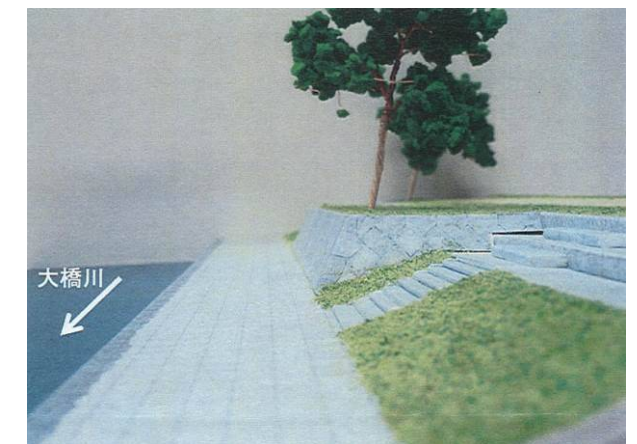
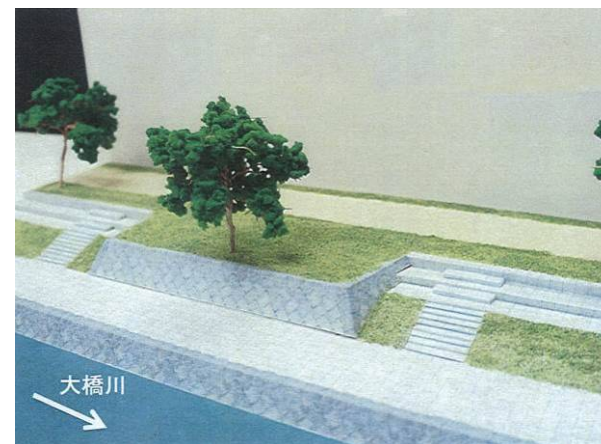
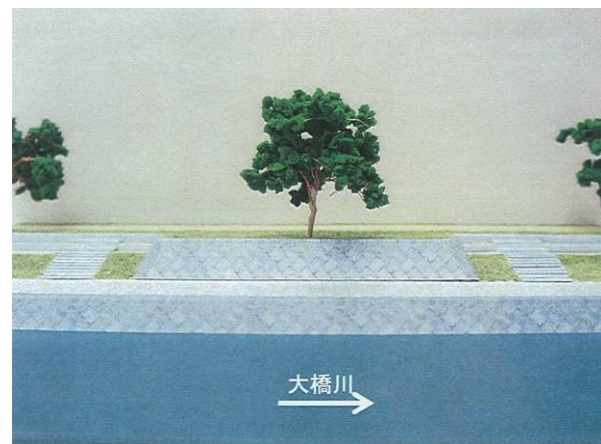


【B案】

■ 整備イメージ図



■ 模型



(4) 自由討議結果(主な意見)

1. 水辺の使い方に関すること

- ①水と触れ合える場所がなるべく多くあると良い。
- ②A案は親しみが感じられる(親水性)。
- ③この水辺がカヌーの人達で賑わうことはすばらしい。そのためにも、活用しやすい形状が良い。
- ④舟で眺められるのもよい。(白鳥号の他に、もう少し小さい舟でも良いと思う)

2. 施設に求める機能

- ①水辺に降りるための階段は自然な流れがよいので、A案が良い。
- ②災害(火事)の時に川側から消火できるなど、連続的に階段状の護岸とするのがよい。
- ③水深が深いため、水際散策路に手摺りが必要。
- ④災害用のベンチ、マンホールトイレ等が近くにあるようにしてほしい。
- ⑤A案、B案ともに、水際散策路は必要だろうか。(宍道湖でもあまり見かけないから)

3. 景観として求めること

- ①A案もB案もデザイン性はあるが、松江の歴史性のようなものを残したら。(如泥石など)
- ②他の都市と同じではなく、松江らしさがほしい。(来待石のベンチやモニュメントなど)
- ③水際にもっと緑を増やせないか。
- ④水辺のヨシは背が高くなると景観を損なう。設置しない方がよい。

4. その他

- ①木陰は多い方がよい。
- ②階段護岸はイベントや観覧などで利用するため、植栽はできるだけ少ない方がよい。
- ③階段や石積みには来待石を活用し、人工的な感じをできるだけ抑える方がよい。

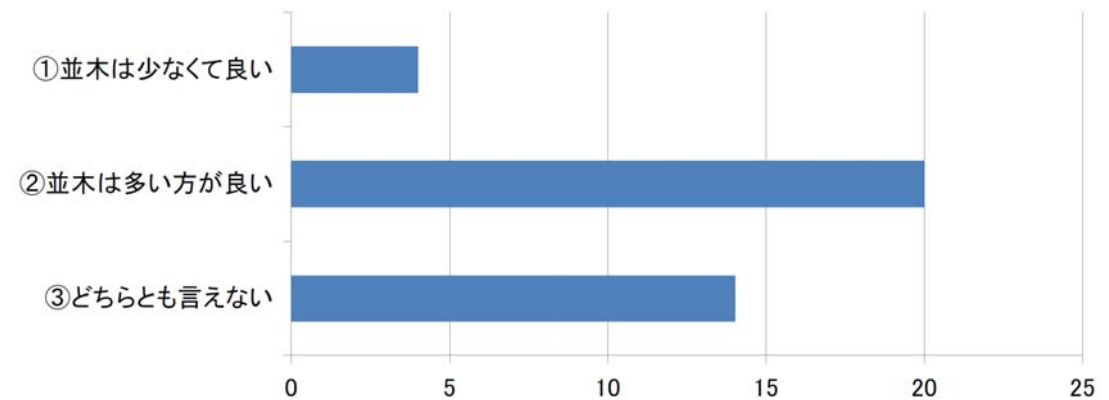
(5) A案, B案投票結果

	A案	B案	どちらでもない
1回目(会議前)	21票	10票	1票
2回目(会議後)	20票	6票	4票

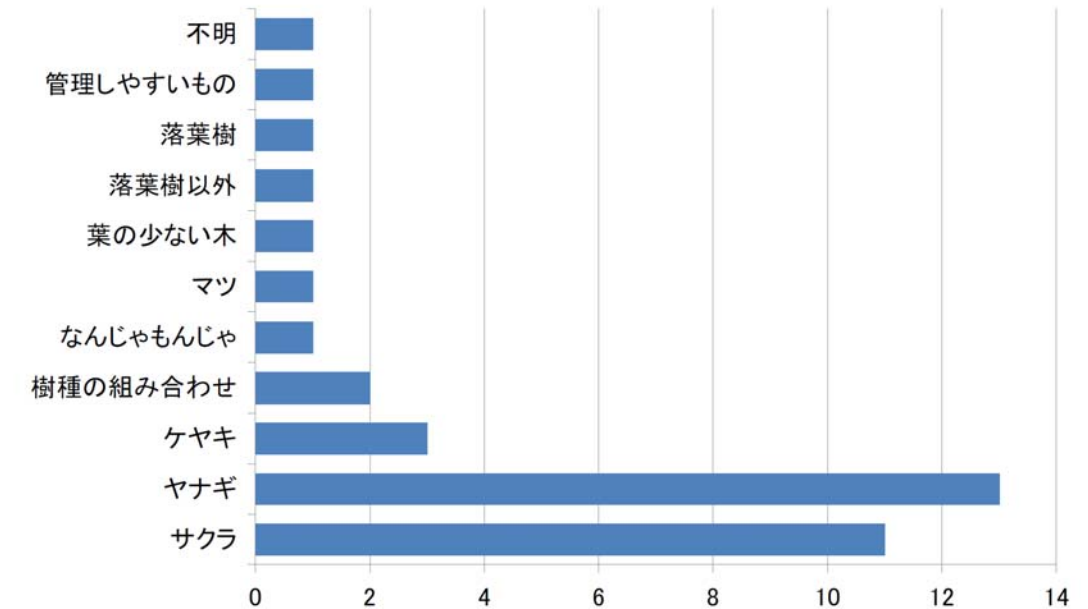
(6) アンケート結果

問1. 水際の並木等についてお聞かせください。

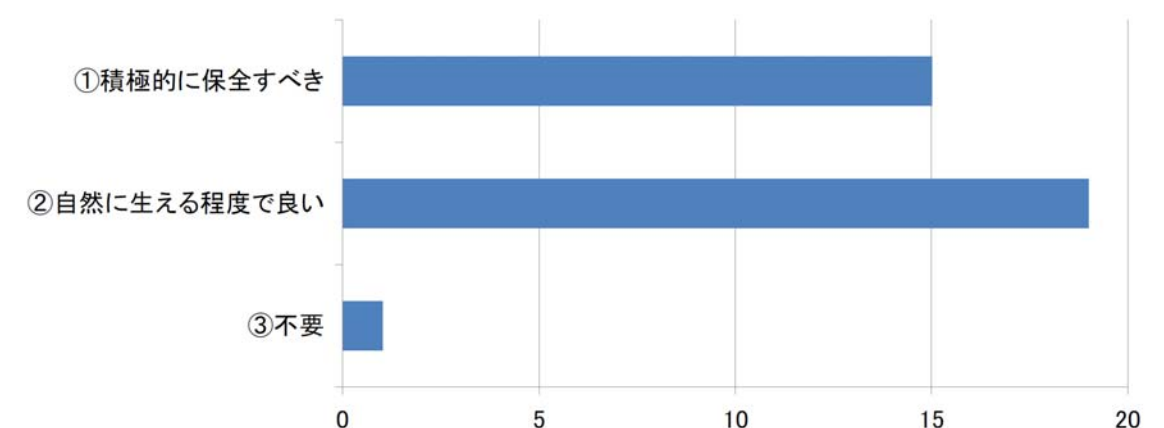
ア) 並木の数は?



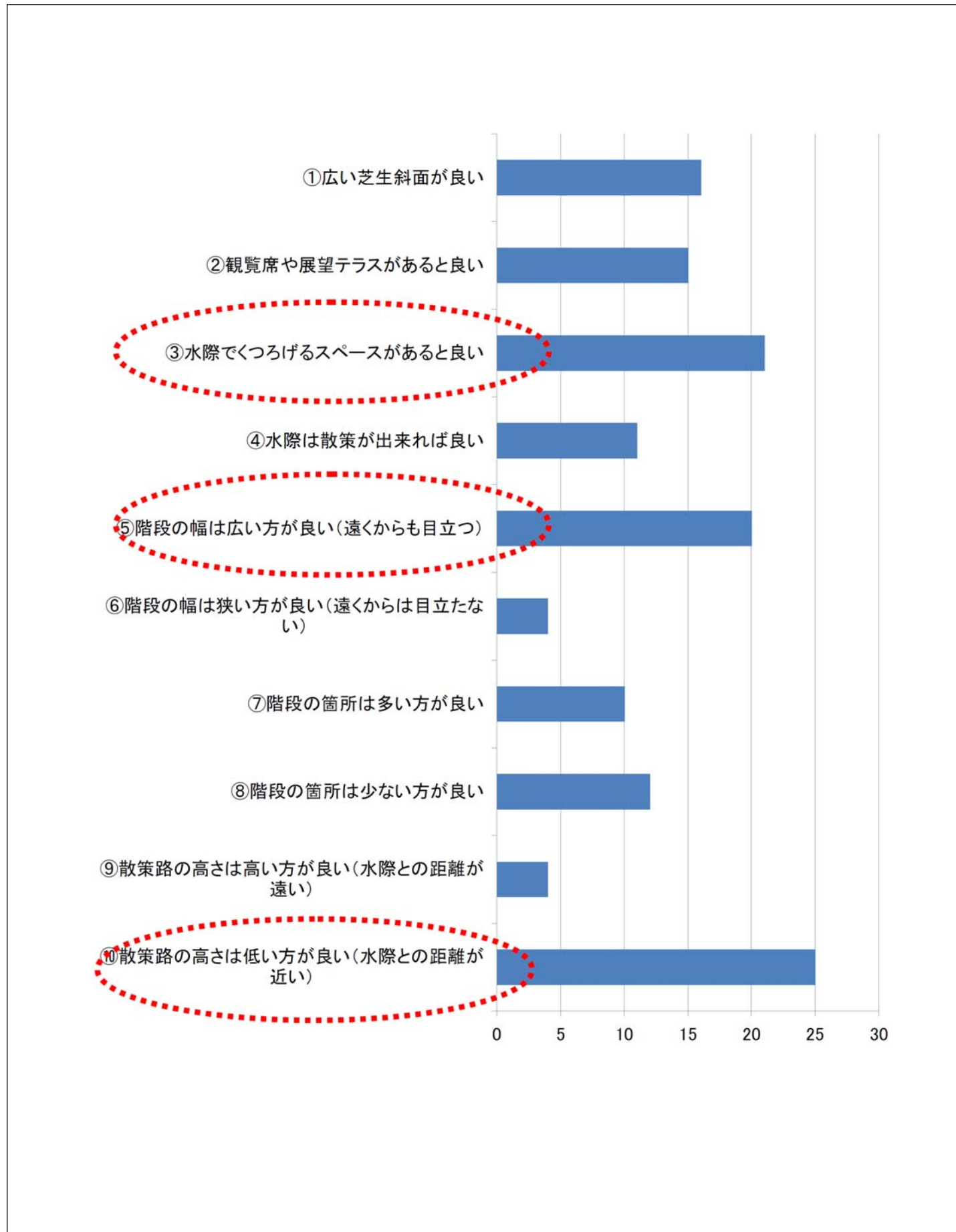
イ) 並木の種類は?



ウ) 水際の植生(ヨシ等)は景観上必要と思いますか?



問2. 水際の形についてお聞かせ下さい。(複数回答可)



(問2の理由: 自由意見)

①広い芝生斜面が良い	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や恋人等がくつろげるスペースがあった方が良い ・階段等が多いと芝の管理に支障をきたす ・多目的に使える ・癒やしの空間、子供が遊べる ・観覧場となる、歩きやすい ・階段を和泉川(事例)のように ・芝生の上でくつろげる ・開放感がある ・階段がよい ・横になったり、足を伸ばして休めるスペースとして必要である(コンクリートは夏熱くなる) ・子供も大人も寝っ転がって楽しめる
②観覧席や展望テラスがあると良い	<ul style="list-style-type: none"> ・くつろげるため ・水辺でくつろぐことができる ・休みがとれる ・ホーランエンヤ、イベント等で使える ・ゆったりとした気持ちで見学できる ・ホーランエンヤ、ポートレースに利用できる
③水際でくつろげるスペースがあると良い	<ul style="list-style-type: none"> ・魚釣り、貝採りが可能 ・家族や恋人等がくつろげるスペースがあった方が良い ・裸足で水中に入って魚介の取れる水辺とすべき ・親水性がある ・心がやすらぐ ・防災でも使えるのでは? ・水辺の魚や植生とのふれあい ・散歩道等とし有効利用 ・子供たちが水に触れる場所は必要だが、安全確保も重要である ・宍道湖の東岸の様に見ずと触れる様に石畳も広く(石畳は一部分ではなく長く)
④水際は散策ができれば良い	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングができる ・ゴズとか魚が泳いでいるとよい ・階段がなくても遊水池機能がもてるような作りにはならないでしょうか ・景観を見る必要性? 治水が第一 ・水深が深いため ・水際でエビなどを捕る楽しみ
⑤階段の幅は広い方が良い(遠くからも目立つ)	<ul style="list-style-type: none"> ・歩幅をよく考えて、着色も ・階段としての使い方だけでなく、他の使い方も可能となる ・観覧席の代わりに利用もできる ・階段は所々に配置したのでよい ・安全 ・高齢者にとって段差が低く広い方がよい ・自由性が高い ・観覧席に利用できる
⑥階段の幅は狭い方が良い(遠くからは目立たない)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート等を減らす事が必要
⑦階段の箇所は多い方が良い	<ul style="list-style-type: none"> ・多くあるべき、ゆったりと ・防災上
⑧階段の箇所は少ない方が良い	<ul style="list-style-type: none"> ・広い幅の階段をポイント的に配置 ・広く少ない方が良い ・より緑を多くする方が良い ・治水の面から考えれば ・幅の広いのを造る ・散策の面積を広くしたい
⑨散策路の高さは高い方が良い(水際との距離が遠い)	-
⑩散策路の高さは低い方が良い(水際との距離が近い)	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ水際まで近づけるようにした方が良い ・水面と親しみやすい ・親水性がある ・少々長くて高さが低い方がよい ・水を身近に感じられるから ・水に親しめる ・水辺へ降りなくても水辺を近くに感じられる方が良い ・水を眺めるにはこの方が良い ・設計高(TP1.0m程度)で良い ・川の流れる音も楽しみ

問3. 向島地区の水辺の利活用についてご意見をお書きください。(自由意見)

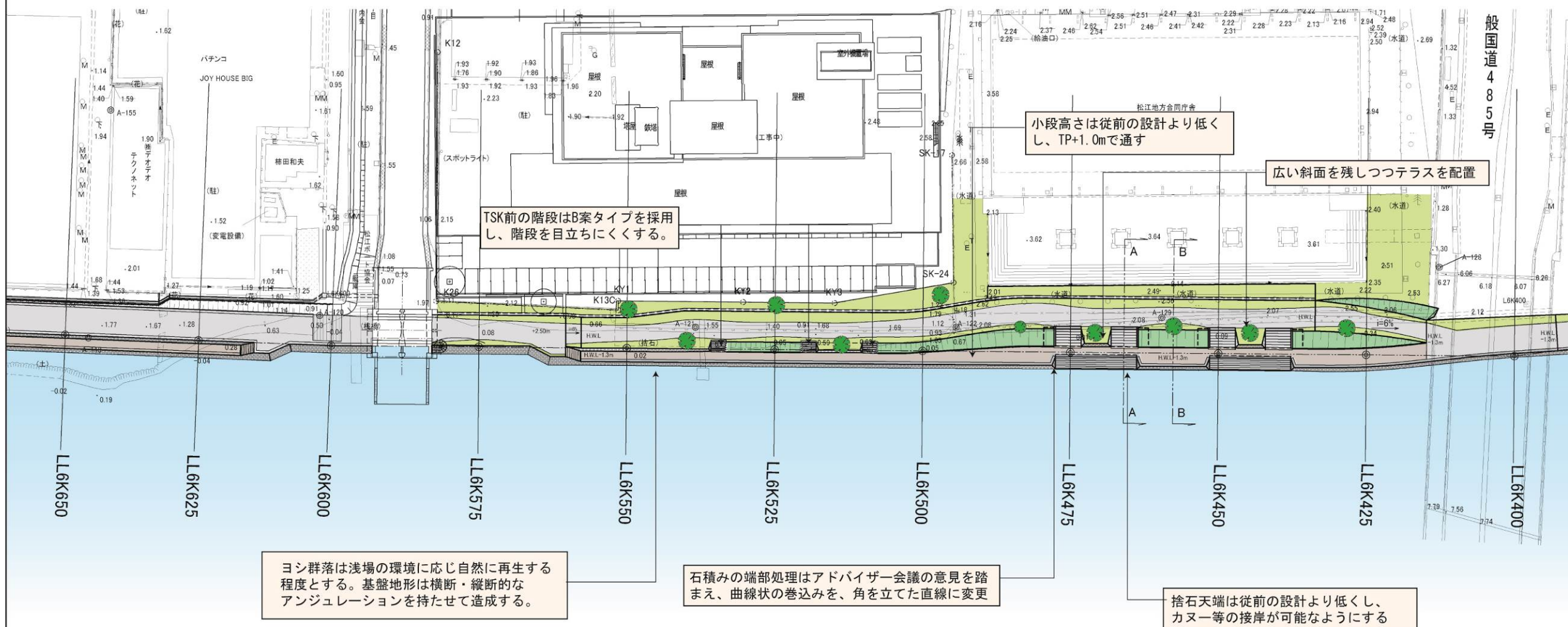
- 毎年水郷祭は家族で合庁前で花火を見ます。この様な親水スポットが出来れば色々なイベントにも活用出来るのではないか？
- ビオトープに十分なる配慮を。松江で一番の環境再生回帰。
- 遠方から見たときに、人工的護岸が目立たない様な設計とされたい。
- 北岸では、唯一人と近さがあり活用が望める場所。また、水辺空間を活用し都市的景観を生み出せる場だと思う。橋は構造的なことを議論したが、デザインや植栽等は今後しっかりと検討して行かなければと思いました。是非、水辺をつなげて行くためにもくにびき大橋から東側へ延ばしていきたい。
- 水辺を活用したカフェやレストラン。
- 南北を行き来する船便の運航。
- A案は水辺を利用しての活用がしやすい。
- 水辺で水と触れあえる構造にしていきたい。A案に木を多く植えて、木陰を多くしていただきたい。
- 水郷松江の面影の残る自然湿地帯に保存
- 自然生命(魚、昆虫、両生類)が住める湿地帯
- 階段や石積には来待石を活用するなど人工的ではない感じをだす。
- 親水性のある護岸にしてほしいです。水質をきれいにしてほしいです。
- 水辺を使うイベント。
- A案の水際の歩道から下の部分と、B案の水際の歩道より上の部分を合わせたものがないのでは？
- 親水性大変よい。大橋川の冒険ができる。(子供)
- 朝・夕景(大山や夕日)の散策、ジョギングもよい。ヨシの管理。
- レガッタのレースはないが、練習の場所になっているのでボートがうまく接岸できるように
- もう一度WSを開催して欲しい
- 水の都にふさわしい環境を整備されたい。利用者を求めるため駐車場を設置した方がよいと思います(松江市役所西側の歩道を参考に)
- 大橋川ー松江市役所ー白濁天満宮ー玉造温泉を結ぶ定期便を運航したら
- ボートやカヌーのメッカとなると良いのでは
- 水辺の景観も大切と思いますが治水第一で予算を考えて欲しい
- 親水性護岸は上流の浅いところに設置すれば良い
- くにびき大橋からメッセにかけての整備を是非同時に進めてください。
- イベント、スポーツ等に活用
- 宍道湖の水質をよす来るようヨシを育成されている。管理を十分に配慮しないと風光明媚を損なう(高さが心配)

2. 向島地区整備プラン

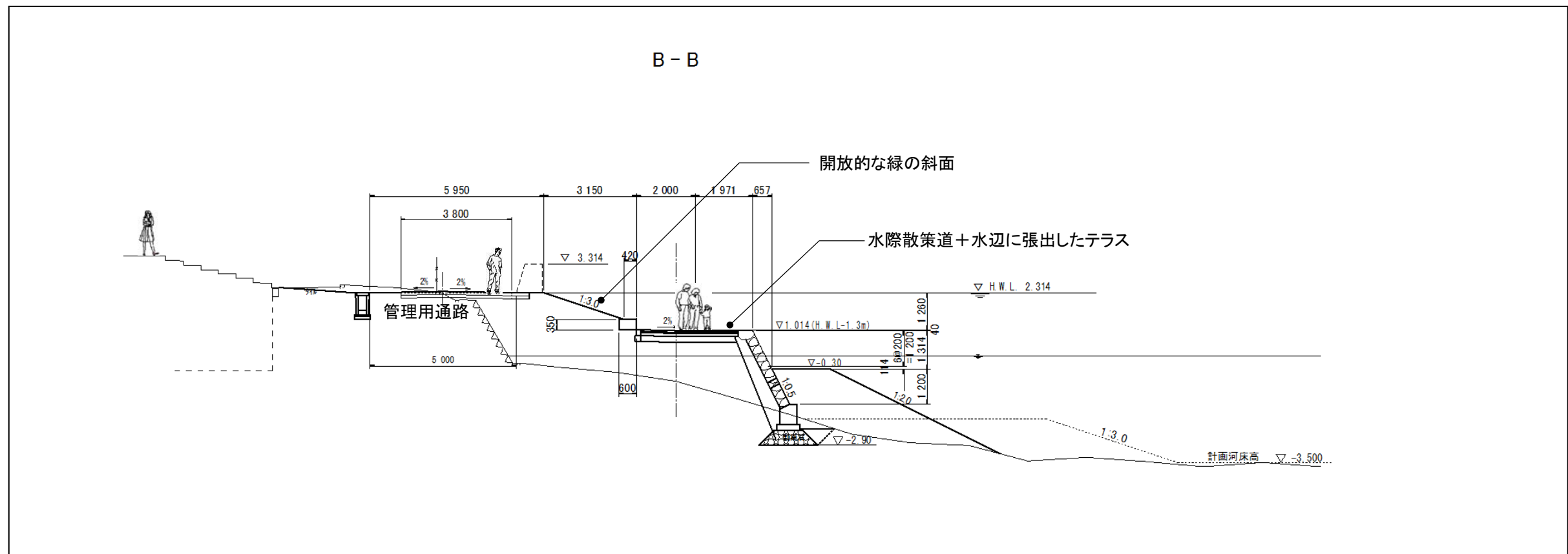
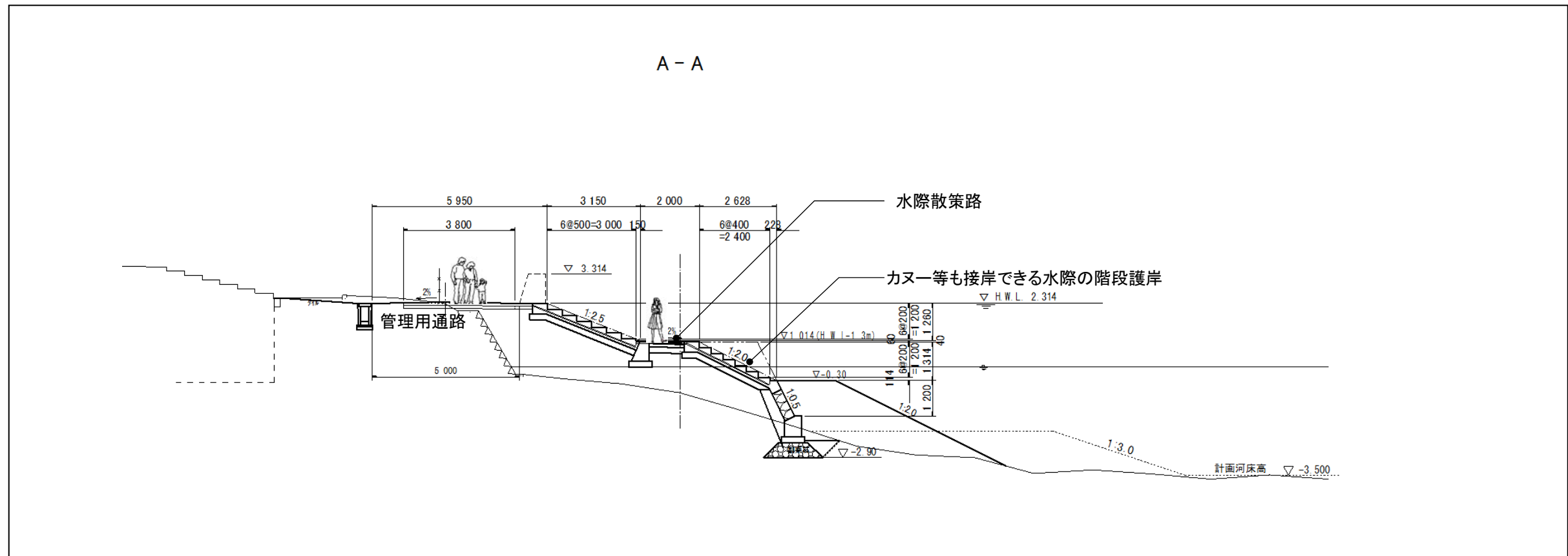
■平面図

アンケート調査の主な意見の反映

- ◆樹木
 - ・並木は多いほうが良い ⇒ 天端スペースを利用しほぼ等間隔に各所に配置
- ◆上段法面
 - ・広い斜面と眺望テラスの双方をバランスよく配置する
- ◆上部階段
 - ・合同庁舎前の階段は水景広場の階段との連続性も考慮し存在感をもたせる
 - ・TSK前の階段は目立ちにくくする。
- ◆水際階段
 - ・幅の広い階段があったほうが良い ⇒ A案の水際階段を採用する
- ◆水際散策路
 - ・水際との距離はなるべく近くしたほうが良い ⇒ 現設計より低いTP+1.0mとする
- ◆捨石工
 - ・カヌー等の利用がしたい ⇒ 捨石高さをTP=-0.1m(平均水深20cm)から、TP=-0.3m(平均水深40cm)に変更する



■代表横断面図



■ 整備イメージ図



【景観設計方針】

景観設計にあたり配慮すべき事項

①護岸選定方針

◆石積み護岸を基本とする

- ・上流北岸の特徴である石積み護岸や柳並木等の風情に配慮し、観光都市松江にふさわしい水辺景観の形成を図るため、石積み護岸を基本とする。

◆水辺のスポットでは開放的な緑の空間を創出する

- ・背後地と一体性のある開放的な水辺空間を形成する区間では、護岸の上部は緩勾配の張芝護岸とする。

◆階段部や平場部は自然石仕上げとする

- ・細部の仕上げ等は自然石張りとし、護岸全体の質感を確保する。不容易にコンクリート2次製品は使用しないよう配慮する必要がある。

②水辺のスポット・修景要素配置の考え方

◆背後地の土地利用や利用者の動線に配慮し階段、水辺散策路等を配置する

- ・合同庁舎の水景広場等、背後地の広場や利用者動線に配慮し、水辺にアクセスする階段護岸を配置する。
- ・また主要な視点場からの見え方に配慮し、水辺景観形成の修景要素となるよう配慮する。

◆ヤナギを主とした河畔並木の形成

- ・上流区間北岸の特徴となっている河畔のヤナギ並木のイメージを継承できるよう、ヤナギを主体とした植栽を行う。

③主要な視点場と景観

◆くにびき大橋歩道上からみた水際の眺め



景観設計方針

①石積み護岸

1) 材料




【護岸の整備にあたっては、自己主張せず目立たない存在となるよう、また至近景で質の高い景観が確保できるよう自然石(島石)を使用することを基本とする。】

- ・当該区間は多くの区間がブロック積みとなっているが、上流から連続する一連の「松江らしい」景観を形成するため、島石を使用した石積み護岸を採用する。
- ・また水際散策道を新たに整備することから、明度が低く自己主張しにくい、その独特の風合いにより近景で見ても味わいが感じられる島石を使用することが有効。

2) 積み方

【石積みの積み方は、大橋川や京橋川で多用されている雑割石の谷積みを基本とする】

- ・大橋川では、一部に残る古い護岸を除き、島石を用いた谷積みの護岸となっている。
- ・大橋川は河川スケールも大きく、河川景観の主たる要素は水面と背景の街並みであり、護岸はそれらに溶け込む背景要素となっている。よって自己主張がなく、現状の大橋川の景観イメージと最も調和しやすい積み方と評価できる。

野面石乱積み	割石乱積み	雑割石・間知石谷積み
		
<ul style="list-style-type: none"> ・松江城石垣の一部に用いられている。 ・内堀や外堀の一部にも見られるが、少数派。 ・全般に野趣に富んだ趣となる。 ・大橋川の現状の風情とは調和しにくいと評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内堀や外堀(堀川・京橋川)の一部に残っている。 ・近代の改修前は、京橋川や大橋川にも多く用いられていたと推定される。 ・近代以前のイメージがあり、城郭や掘割の景観と調和しやすい。 ・歴史的資源の存在する箇所や、印象的なアクセントを形成したい場所などにスポット的に用いることは有効と評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大橋川や、堀川・京橋川の多くの区間で用いられている。 ・特に自己主張がなく、現状の大橋川の景観イメージと最も調和しやすい積み方と評価できる。 ・不整形な雑割石を用いる、目地の陰影を見せる、しっかりとした噛み合せで構造的な安定感を見せるなどの工夫が必要である。

3) 細部への配慮

<石材の種類>

【不整形な雑割石を使用し、護岸の表面に豊かな表情を与える】

- ・大橋川の石積護岸は、島石を用いた谷積みが主たるものであるが、石材は統一された規格形状ではなく、不整形なものが用いられている。こうした雰囲気再現するため、不整形な雑割石を使用することを基本とする。



松江大橋下流北岸
・石在の形状や大きさがマチマチで、ブロック積みと比べ豊かな表情が現れている。



粗面仕上げコンクリートブロック
・割肌・深目地のコンクリートブロック。風合いはあるが、整形的なイメージになり易い。

<目地>

【深目地とし陰影を強調する。ただしコンクリートの露出を避ける】

- ・既設護岸は、雑割の石材がつくる目地がはっきりと見て取れ、陰影が強く現れている。
- ・目地の浅い間知石積みやコンクリートブロック積みでは、こうした陰影が現れにくく、ノッペリとした巨大な面に見える。よって目地は深目地とし、護岸表面に多様な陰影が現れるようにする。ただし胴込コンクリートが表面に露出しないように十分注意する必要がある。



新大橋下流北岸・石積アップ
石は不整形で、表面の凹凸が大きく、目地が深く陰影に富んでいる。老朽化に伴いモルタルで目地補修が行われている箇所も多い。施工時には深目地としながらも、胴込めコンクリートが露出しないように配慮することが必要



目地コンクリート露出への配慮が欠けた例。石積の力感がなく石張りに見える。

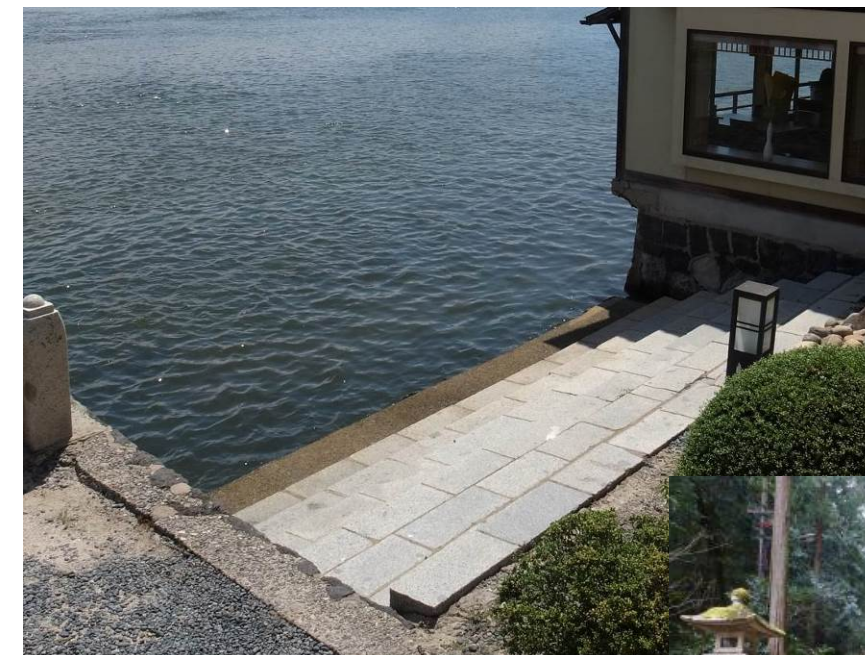
②階段護岸

【階段部は石積とは異なる石材を用い、護岸全体の中で景観的なアクセントになるよう配慮する】

- ・階段護岸は比較的大きな法面積を呈することになるため目立ちやすい存在である。
- ・石積と同じ材料とした場合、遠景では護岸全体が大きな1つの面として捉えられやすく存在感が強まるおそれがある。
- ・よって階段護岸部は、石積護岸とは材料（石材の種類、形状、張り方など）を異なるものとし、護岸全体の見え方の分節化を図るとともに、階段部が連続する護岸全体の中でアクセントとなるよう配慮する。
- ・後述する「水際歩道」の仕上げについても同様の考え方（石積とは材料を変える）を適用する

【階段の材料は、地域景観に調和しやすく風格あるイメージとするため来待石切石を用いる】

- ・階段部の材料は、島石とは色味が異なり、現在も護岸の一部に使用されている来待石を採用する。
- ・古くから神社の階段などにも多用されており、地域景観と調和しやすい材料と評価できる。
- ・また凝灰質砂岩に分類される来待石は硬度が低く、足当たりが良いとされる。
- ・材料の形状は、細工を排した切石加工とし、風格あるイメージを創出する。
- ・なお来待石は、石質が軟らかいため摩耗が進行して平滑化しやすいため、小叩き仕上げ等による滑り防止加工を行うものとする。



・大橋上流北岸のなにわ本店脇にある階段護岸。御影の切石が使用されている。大橋から見下ろす景観の風情あるアクセントとなっており、しっかりした切り石組は風格を感じさせる。



・来待石の切石階段は、神社の石段にも多く用いられてきた。柔らかい材質のため、足当たりが良いとされる。

